2　重慶政権の諸動向

225　昭和16年12月13日　在中国日高代理大使より東郷外務大臣宛(電報)

蔣介石の「海外華僑に告ぐるの書」について

南　京　12月13日後発
本　省　12月13日夜着

第八九〇號

十一日重慶側ハ蔣介石ノ海外華僑ニ告クルノ書ヲ放送セリ其ノ要旨左ノ如シ

中國ハ人類正義ノ爲侵略各國日、獨、伊ニ對シ宣戰ヲ布告シタルカ今ヤ戰火太平洋上ニ擴大シ余ハ深ク同胞諸君ヲ思フノ情切ナリ余ハ諸君カ抗戰以來總力ヲ擧ケテ祖國救護ノ民族精神ヲ發揚セルヲ欣快トスルモノナルカ今ヤ盟邦各國亦侵略各國ニ對シ宣戰ヲ布告シ侵略陣營ニ對スル反侵略陣ヲ結成セル際盟邦ノ敵ハ卽チ我中國ノ敵ニシテ盟邦ノ存亡ハ又我中國ノ存亡ナルニ鑑ミ諸君ハ遠ク外地ニアリト雖モ祖國ニ於テ抗戰ニ參加スルト同一ノ心ヲ以テ第二ノ故鄕タル盟邦現地ノ作戰其ノ他各種工作ニ勇躍參加シ最後ノ勝利ニ向ヒ民族的義擧ヲ發揮シ以テ大使命ノ完成ヲ期センコトヲ切望ス

北大、上海、廣東、厦門へ轉電セリ

226　昭和16年12月13日　在中国日高代理大使より東郷外務大臣宛(電報)

開戦に際して発表された中国共産党による反ファシズム宣言について

南　京　12月13日後発
本　省　12月13日夜着

第八九一號

重慶情報

日米開戰ニ關聯シ中國共產黨中央執行委員ハ九日宣言ヲ發表セルカ右要旨(重慶放送ニ依ル)左ノ通リ

日英米戰爭ハ米英其ノ他民主國家ニ對スル日本ノ侵略的不法ノ戰ナリ民主國家ハ協力シテ自由獨立及民衆ヲ保衞スルヲ要ス本戰爭ニ依リ「ファシズム」ト反「ファシズム」ノ對立明確トナレリ現在中國ハ日本ノ側面ヨリ抗戰ヲ繼續スルト共ニ共同シテ「ヒットラー」「ムソリニー」ノ惡逆行

爲ヲ打倒スヘキナリ本戰爭當初ニ於テ日本ハ漸次勝利ヲ得滇緬路ニ進攻スルヤモ知レサルモ之ハ反「ファシズム」陣營ノ最後ノ失敗ニシテ卽チ「ファシズム」陣營ノ勝利ナリ中國政府及人民ハ宜シク人力物力ヲ總動員シテ最後ノ勝利ヲ獲得スヘキナリ現在ノ重要任務ハ次ノ如シ

一、中國ハ英米ト軍事同盟ヲ締結シ共同シテ太平洋上ニ抗日民族戰線ヲ確立ス

二、全國軍民ハ一致シテ大反撃ヲ發動スルコト

三、八路軍及新四軍ハ引續キ華中、華北ニ於テ日軍ヲ牽制スルコト

四、反「ファシズム」陣營ノ力ヲ增加ス

五、抗日民族戰線ヲ强固ニシ國共ハ徹底的ニ合作シ新四軍ヲ復活シ八路軍ヲ覺醒ス

六、親日獨派ヲ除去ス

七、各黨各派無黨無派ヲ集メテ抗戰ノ責任ヲ負擔ス

八、華僑ト祖國ノ關係ヲ增シ離間行爲ヲ排シ政府ト協力シテ抗日シ「ファシズム」陣營ニ反抗ス

北大、天津、上海(總)、滿大ヘ轉電セリ

227　昭和16年12月13日　在中国日高代理大使より東郷外務大臣宛(電報)

開戦後の重慶政権の動向につき報告

南京　12月13日後発
本省　12月13日夜着

第八九九號

開戰時ニ於ケル重慶ノ動向ニ關シ重慶放送ヲ綜合スルニ左ノ通リ

一、今次ノ開戰ハ重慶側ノ思フ壺ニ嵌レルモノト信シ居ルモノノ如ク(イ)中央日報ハ號外ヲ出シテ第一報ヲ傳フルヤ重慶市民ハ昂奮ノ極ニ達シ(ロ)要人ハ民主主義國家陣營統一シ日支事變ハ完全ニ世界戰爭ノ一環ヲ爲スニ至レリト觀測セル旨報道セリ

二、孫科ハ記念週間ニ於テ日獨伊ニ對スル宣戰布告ノ要ヲ說キタルカ一方蔣介石ハ八日早朝軍事政治外交ノ主腦者會議ヲ開催シ正午ヨリ引續キ三時迄中央常務委員會ヲ開キ對日獨伊宣戰ヲ議シ直後英米蘇各大使ヲ招致シテ夫々宣戰ニ關スル公文ヲ手交シ郭泰祺ハ午後六時内外ノ新聞記者ヲ招致シテ以上ノ措置ヲ說明シ宣戰布告ニ決セル旨ヲ

發表セリ(宣戰布告ハ翌九日附ヲ以テ發表セリ)
三、更ニ蔣介石ノ全國軍民ニ告クルノ書海外華僑ニ告クルノ書「チャーチル」トノ往復電報(共同奮鬪ヲ誓ヘルモノ)國際文化團體聯盟ノ對外宣言ヲ發表セシメ中英文化協會中緬文化協會ヨリ香港總督及緬甸新聞社ニ激勵電ヲ發セシムルト共ニ大中小學生ヲ動員シテ示威行列ヲ擧行セシムル等宣傳ニ努メ居ル模樣ナリ
四、此ノ間重慶放送局ハ「ユーピー」同盟倫敦放送等ニ依リ戰爭「ニュース」ヲ放送セルカ成ルヘク英米側ノ損害ニ觸レサル樣努メ居ルモ英米ニ於テ割合ニ正直ニ發表セラレタルモノハ其ノ儘放送セラルルヲ以テ戰爭「ニュース」ニ關スル限リ自然日本ニ有利ナル放送多ク稀ニ時折突拍手モナキ「デマ、ニュース」ヲ放送シ目下ノ處放送ニ統一的計畫ナク聽衆ヲシテ思想的混亂ニ陷ラシメ居ルモノノ如シ

「タイ」、河内ヘ轉電セリ
在支各總領事、滿ヘ轉電セリ

228　昭和16年12月15日　在上海堀内総領事より東郷外務大臣宛(電報)

開戦後の重慶政権部内における対日姿勢等に関する情報

上　海　12月15日後発
本　省　12月15日夜着

第二三〇一號

十三日ＪＫ(開戰直前來滬セリ)報告左ノ通リ
一、重慶ニテハ英米軍カ南太平洋外ニ疎隔セラレ「ビルマ、ルート」切斷ニ依リ雲南方面ニ集中セル主力カ全滅ノ危機ニ瀕スヘキヲ惧レ居ル一方資產凍結後多數ノ中國人財產ハ硬貨ニ替ヘラレ居ル爲香港陷落セハ其ノ損害ハ莫大ナルヘシトシ居レルカ中國人ハ目前日本軍ノ威力ニ驚歎シ全面和平待望ノ心理ハ更ニ痛切トナリ居リ日本當局ニ於テ租界內中國人保護ニ此ノ上盡力セハ反日心理ニハ自然變化ヲ生スヘキヲ以テ此ノ際聲望アル有力者ヲ利用シ將來ノ安居樂業ヲ保障スルヲ信セシムレハ重慶勢力下民衆ノ和平待望ノ聲ハ愈々大トナルヘク又從來重慶部內ニ於ケル主和分子陳果夫、陳立夫、何應欽等ノ活動モ一步

ヲ進メ得ヘク將來戰局カ決定的ニ英米ニ不利トモナレハ彼等ハ蔣個人ノ犧牲トナリテ西康、寧夏ニ侵入スルヲ拒否スルニ至ルヘシ

一、閻錫山ハ日和見態度ヲ持シ居ルカ其ノ蔣介石擁護ハ山西實力保持ノ方便ナレハ今後日本軍ニ於テ閻、蔣兩軍ノ切斷ニ成功セハ和平陣營ニ投シ來ルコト疑無カルヘシ卽チ目前ノ閻ノ苦悶ハ中央共產兩軍カ閻ノ地盤ニ入込ミ其ノ自由ヲ制限サレ居ルコトナレハ中央軍ノ監視サヘ解ケレハ少數ノ牽制ハ問題トセサルヘシ但シ閻ハ利己的傾向アリ日本トハ單獨妥協ハ之ヲ欲セルモ汪政權ヲ通シテノ交涉ハ成立困難ト見ラレ若シ閻ノ和平運動參加實現セハ時節柄蔣政權部內ニ相當變化アルヘク卽チ閻ト密接ナル聯絡アル西南派蔣領モ客觀條件成熟ノ程度ニ依ルコト勿論ナルモ和平ニ傾クハ必定ニテ四川劉湘舊部下ノ反蔣心理モ深刻化スヘキハ疑無シ

一、蘇聯ノ對日中立發表ハ其ノ利益ヨリ出發セルモノニテ蘇聯トシテハ西比利亞ノ憂慮ヲ斷チ獨伊作戰ニ專心シ莫斯科ノ保衞ニ努ムヘク其ノ次ハ獨逸ノ西歐作戰ノ變化ニ集中セラルヘシ

南大、北大ヘ轉電セリ

---

229 昭和16年12月15日 在上海堀内総領事より東郷外務大臣宛（電報）

開戦後における重慶政権と中国共産党との関係に関する情報

上海 12月15日後発
本省 12月15日夜着

第二三〇二號

往電第二三〇一號ニ關シ

十三日ＪＫ情報日英米開戰ニ於ケル國共動向ニ關スル部分左ノ通リ

今後ノ國共關係ハ愈複雜化スヘク中共ハ當初ハＡＢＣＤ陣營ノ援護ヲ標榜シ蔣介石トノ友好關係保持ニ努ムヘキモ將來河北河南江蘇浙江等ノ如キ國共兩軍ト日本軍近接シ居ル地域ニ於テ日本軍ノ移動アル場合ハ國共兩軍ハ其ノ地盤爭ヲ演スヘク蔣トシテハ又此ノ日本兵力ノ壓力減少ヲ利用シ皇軍ニ强壓ヲ加フルコトトナルヘシ

中共ハ目前ＡＢＣＤノ擁護ヲ表明スルト共ニ新四軍ノ復活

ヲ要求シ居ルカ右ハ蔣ノ立場ヨリセハ火事泥ノ感アリ蔣ハ蘇聯ノ對日中立ニ對シテハ英獨開戰ノ際ト同樣之ヲ諷刺スルト共ニ中共カ蘇聯ニ忠ニシテ祖國ヲ顧ミサル陰謀ヲ云々スルニ至ルヘク他方重慶內部カ多少ニテモ和平ニ傾ケハ中共側ハ之ヲ攻擊スヘク斯テ兩者ノ關係ハ太平洋戰爭ノ推移ニ伴ヒ其ノ矛盾益々深刻化スヘシ

南大、北大ヘ轉電セリ

230　昭和16年12月15日　在上海堀內總領事より東鄕外務大臣宛(電報)

重慶政權によるソ連との外交關係緊密化模索等に關する情報

上　海　12月15日後発
本　省　12月15日夜着

第二三〇五號

重慶情報

AMカ項介人其他重慶側殘存分子ヨリ得タル情報左ノ通

一、重慶政府ハ今次戰局ノ勝敗ニ重大影響アルハ蘇聯邦ノ動向如何ニ在リトナシ此ノ際蘇支外交關係ノ緊密强化ヲ圖リ對日總反攻ヲ敢行スル必要アリトテ揚杰ヲ特派使節トシテ「クイブシエフ」ニ急派スルコトニ決定セル外「パニユーシキン」蘇聯大使ニ對シテモ蘇聯ノ蹶起ト軍需品ノ對支援助及米國ニ對シ極東軍事基地ノ提供方等陳情セリ(往電第二二九五號參照)

二、重慶軍ハ滇越邊境ニ十萬以上集結セラレ居リ英國側ヨリ佛印駐屯ノ日本軍牽制方要求セラレ居ルモ目下顧祝同軍ノ南京方面陳誠ノ武昌方面奇襲作戰計畫ニ追ハレ結局佛印進攻カ地理上困難ナル事情モアリ馬來緬甸方面ニ於ケル英軍ノ優勢トナルヲ俟テ後方攪亂策ニ出ツル方針ノ如シ

三、英國側ハ香港ハ少クトモ三ケ月ヲ保持シ得ヘシト揚言シ米國側ハ馬尼剌ハ一ケ年之ヲ固守シ得ル自信アリ今後四ケ月ニシテ强弱ノ數ハ自ラ判明スヘシト豪言シ居ルヲ以テ重慶側一部ニ於テハ之ニ迷ハサレ今次ノ戰爭ノ前途ニ對シ樂觀シ居ル者モ鮮ラス

四、何應欽ハ蔣介石ニ對シ作戰ノ要ハ士氣ノ問題ニシテ武器如何ハ第二義的ノモノナルカ今ヤ日本ハ英米ニ對シ決戰ノ覺悟ヲ固メ士氣昂揚シ居ルヲ以テ勝敗ノ數ハ逆睹シ難

シ仍テ今後六ケ月ニシテ日本ノ士氣依然衰ヘサルニ於テハ獨逸等ヲ仲介トシテ對日和平ヲ講セサレハ時機ヲ失スル惧アリト進言セル由

南大、漢口、北大、天津、廣東、河内へ轉電セリ

231　昭和16年12月16日　在上海堀内総領事より東郷外務大臣宛(電報)

重慶政権との協力等に関する中国共産党側の情報

上　海　12月16日後発
本　省　12月16日夜着

第二三〇九號

AK情報

延安ヨリ十三日當地中共側ニ達シタル密電ニ依レハ中共革命軍事員會(委カ)ハ共産軍ハ民主陣營參加對日獨伊宣戰布告承認ノ件ヲ可決シ重慶ニ對シ全共産軍ハ國民黨ト合作シ英米トノ共同作戰ニ依リ最後ノ勝利ヲ奪取スヘキ旨通知セル由ナルカ同委員會ハ更ニ十四日新四軍ニ對シ國際情勢ノ激變ニ依リ總反攻ノ好機至リ國民黨ト共ニ時艱共同負擔ノ誠意ヲ披瀝セルカ頑固親日派ハ飽ク迄覺醒スル所ナク新四軍起用問題(中共ヨリ最近提出セル中支反攻軍ノ前鋒トシテ新四軍ノ工規軍再建要求ナル由)ヲ放置シテ顧ル所ナク大勢ハ如何トモ挽回シ難キ情勢ニアルヲ以テ我カ黨ハ積極的ニ頑固分子ノ活動ヲ防止スル外抗日除艱ノ烽火ノ下ニ我カ黨軍制ノ保壘ヲ建設シ最後ノ使命完成ノ準備ヲ怠ルヘカラスト訓令セル趣ナリ

南京、漢口、北京、天津、廣東、滿へ轉電セリ

232　昭和16年12月16日　在中国日高代理大使より東郷外務大臣宛(電報)

開戦後における中国共産党軍の動向について

南　京　12月16日後発
本　省　12月16日夜着

第九一四號(極祕)

軍側ヨリ得タル情報ニ依レハ共産黨ハ延安ヨリ日本軍ヲ刺戟スルカ如キ行動ヲ起スヘカラストノ訓令ヲ得居ル趣ナルカ右ヲ裏書セルモノカ開戦以來共産軍ノ日本軍ニ對スル行動無ク山東省ニ於テハ津浦線兩側ニ於テ重慶軍ニ抗シテ四

軍ハ地盤擴張ニ努メ居ル外太平地區ニ於テハ百七十一師ニ依ル新四軍ノ討伐再ヒ積極化セル趣ナリ

233　昭和16年12月19日　在上海堀内総領事より東郷外務大臣宛（電報）

重慶政権軍の動静に関する情報

上　海　12月19日後発
本　省　12月19日夜着

第二三三九號

十七日ＷＡ情報

重慶軍ニ反抗ノ實力無キハ往電第二三四〇號ノ通リナルカ更ニ當地在住重慶派財界人ノ情報ニ依レハ現在九龍接壤地帯及其ノ後方ニテ蠢動シ居ル部隊モ大部分ハ民軍ニシテ正規軍ハ極メテ少ク積極的ニ動キ居ラス（廣東發閣下宛電報第五八三號御參照）又重慶内部軍人間ニハ英米ノ武器援助無キ限リ此ノ上彼等ノ犠牲ニナラストノ傾向强マリ居リ重慶側トシテハ目前太平洋戰爭ノ長期化ヲ待望シ政治的ニハ英米擁護、軍事的ニハ日本軍ノ攻勢ニ應酬スル程度ノ形勢觀望ヲ主要策トシ米國提議ノ濠渝聯合軍ヲ抗日戰根幹トスル案モ到底實現不能ナル由ニテ又米海軍主力ノ馬尼剌到著ヲ待チ重慶軍ハ廣東ヲ反抗スヘシトノ（往電第二一五九號御參照）重慶側ノ申出ハ米國ヲ甚タシク失望セシメタル趣ナリ

南大ヘ轉電セリ

234　昭和16年12月19日　在上海堀内総領事より東郷外務大臣宛

開戦前後における重慶政権の動向に関する情報

祕第三五三六號　（12月24日接受）

昭和十六年十二月十九日

在上海
總領事　堀内　干城［印］

外務大臣　東郷　茂徳殿

「日英米開戰前後ニ於ケル重慶政權ノ動向」送付方ノ件

當館特調班關係者ＪＫヨリ曩ニ太平洋戰前後ニ於ケル重慶政權ノ動向ニ付報告アリ右一部概要ハ既ニ電報報告濟ノ次第アル處今般全文譯出ノ上御參考迄別添ノ通送付ス御査閲相成度シ

本信寫送付先　在滿大使　在支大使　在支各總領事

（別　添）

日英米開戰前後に於る重慶政權の動向（大要）

―ＪＫの報告に依る―

一、重慶側の太平洋大戰前夜の觀望

日米交渉の前途に關する蔣の四つの見透し

(1)日英米談判の妥協成立、支那事變の共同解決

日本の樞軸脱退、米國の、對日貿易恢復及び日本が南洋資源を獲得することの承認、に依りて妥協成立。

支那事變は次の條件に依りて解決

中南支よりの撤兵、汪政權の取消、外三條件（胡適の報告―來栖大使到着前）

蔣は和平實現の見透しに歡喜せりと。

(2)英米は太平洋問題に諒解を與へ日本は對ソ作戰に出づ

モスクワ陷落に依り大西洋に於て英米は窮地に陷り太平洋に於ては對日妥協し日本の北進を慫慂せん。日本の北進に乘じ光榮ある和平を實現せん。

(3)重慶の犧牲に於る日米英の妥協成立。

日本が樞軸を脱退し、不北進不南進の保障を與へることを代償として米國は對日貿易恢復、南洋資源の利用を認め、ビルマ・ルートを遮斷す。

(4)太平洋大戰爆發に依り坐して勝利を俟つ。

日米英開戰し、日本は對支、對ソとの三面作戰に陷り、結局中南支戰線を拋棄せざるをえざるに至り、重慶は坐して勝利をえん。

二、開戰後の各方面の動向

(1)重慶方面

ビルマ・ルートの遮斷、香港陷落に依る中國人の香港貨財産の損失を惧る。

和平待望の心高まる。租界内中國人に對する日本軍の好遇は彼等の反日心理に影響しつつあり。唯日本側の和平條件の過酷を惧れつつあり。

(2)閻錫山の動向

重慶軍の壓力を遮斷せば和平運動に動かん。但し利己的心理に因り、汪政權下に立つことは好まざらん。閻と關係深き西南將領は條件如何に依つては彼と共に動

かん。

三、國共關係今後の推移

中共は米英ソ蔣の連繋强化を唱へ、重慶への協力を表面主張せんも、日本軍の戰線整理あらばその撤退地域への進出、その爭奪を繞つて國共相爭ふべく、又重慶は、日本軍の壓力輕減あらばそれに依る余裕を利用して中共軍への壓迫を增加せん。

蔣はソ聯の對日中立維持を非難し、之を擁護する中共を論難せん。

四、ソ聯目前の政策

ソ聯は對日中立を維持し、對獨抗戰に專念せん。

ソ聯は、日本は英米海軍を南太平洋外に封鎖し、蘭印を確保しビルマ・ルート遮斷の後は對英米妥協を策すべし、と觀測しつつあり。

五、日本軍租界進駐に對する感想

日本軍が租界接收に關し、汪政權を表面に立てなかつたことは全面和平を企圖する人士に好感を與へた。（此の種人士が汪政權の不良行政行爲に對し惡感情を抱けることを示唆するものの如し―要約者註）

235　昭和17年1月13日　在上海堀内総領事より東郷外務大臣宛（電報）

対独国宣戦をめぐる重慶政権内部事情に関する情報

上　海　1月13日後発
本　省　1月13日後着

第六七號

重慶情報

AMニ依レハ重慶側ノ對獨宣戰問題ヲ繞リ郭泰祺ハ行政院最高國防會議席上中國カ對獨宣戰ヲ布告セハ蘇聯モ對日宣戰ノ擧ニ出ツル相當確實ナル情報アリトテ之ヲ主張シ何應欽、谷正剛（綱カ）等ヨリ念ヲ押切リタル經緯アリタルニ拘ラス其ノ後蘇聯側ニ何等反應ノ模樣ナク殊ニ過去數年來獨逸政治顧問ノ薫陶ヲ受ケタル關係上對獨宣戰ニ反對シ來レル黄埔系軍人ノ不滿著シク郭ノ責任ヲ糺彈スルアリ依ツテ宋子文ノ政府入リヲ計リ居リタル蔣介石ハ郭ヲ斥ケ宋子文ヲ外交

部長ニ任命セルニ對シ宋子文ヨリ陳友仁ニ推薦シ來レルカ未タ蔣ノ容ルル所トナラス目下宋子文ハ華府ニ於ケル同盟再組織問題ニ關シ重慶代表トシテ活躍中ニテ屢々宋美齢ヲ通シ蔣ニ意見ヲ具申中ニテ其ノ(四字不明)蔣ハ緬甸ニ飛ヒ遠征軍ニ訓話ヲ行ヒタル事實アリ更ニ近ク數日ノ豫定ヲ以テ蘭印ヲ軍事施設視察ノ爲同地ニ往復スル豫定ナル由

北大、天津、南大ヘ轉電セリ

236 昭和17年2月12日　在北京土田參事官より東郷外務大臣宛(電報)

閻錫山工作の進捗状況につき報告

北　京　2月12日後発
本　省　2月12日夜着

第一二七號(極祕、館長符號扱)

往電第六一號ニ關シ

十日林ノ報告左ノ通

梁上椿ハ一月二十一日在太原岩松軍司令官ノ求メニ依リ太原ニ赴キ蘇山西省長モ加ハリ閻工作停屯(頓カ)ノ原因討議ノ結果本件工作ハ混合委員會ノ如キ事務的折衝ニテハ埒明カス政治的ニ解決スル外ナシトノ結論ニ達シ右ノ爲隰縣ニ於テ閻岩松ノ會見ヲ促進シ其ノ機會ニ約束ノ軍費、軍器ヲ手交スルコトトナリ此ノ旨閻ニ電照セルニ對シ閻ハ梁廷武(梁上椿ノ甥)ヲ派シ來リ右日本側ノ申出ニ異存ナシ自分ハ日米戰勃發ニ依リ日和見ヲ爲シ居ル譯ニハアラス重慶側ニ於テハ閻ノ舊部下賈敬德ヲ派シ來リ嚴重ニ自己身邊ノ警戒ニ當ラシメ居リ自分カ濕縣(隰カ)ニ赴クコトハ實質上反蔣通電ヲ發出スルニ等シク日本軍ノ完全ナル保證ヲ希望スル旨申越セリ仍テ岩松司令官ハ八日來燕シ折柄來燕中ノ後宮總參謀長トモ協議ノ上梁上椿ヲ南京ニ派シ汪精衞ニ委細ヲ說明セシムルコトトシ梁ハ一兩日中ニ赴寧ノ豫定ナレハ閻、岩松兩者ノ濕縣(隰カ)會談ハ汪ノ了解ヲ取付ケタル上行ハルルコトトナルヘシ云々

右ニ關シ十日夜本官岩松軍司令官ト面會ノ際本件ニ言及セル處同軍司令官ハ之ヲ肯定シ後宮總參謀長及北支軍司令官トモ打合ノ結果本件ノ急速打開方ヲ決定セルニ付近ク新發展ヲ見ルヘキ旨述ヘタリ

南大、上海ヘ轉電セリ

237　重慶政権の英米との接触や中国共産党の対重慶接近に関する汪兆銘との会談について

昭和17年2月17日　在中国重光大使より東郷外務大臣宛（電報）

南　京　2月17日後発
本　省　2月17日夜着

第一七九號（極祕、館長符號扱）

二月十六日本使汪主席ト會談ス要旨左ノ通[1]

一、主席ヨリ新嘉坡陥落ノ祝辭ヲ述ヘタルニ對シ本使ヨリ其ノ影響ノ重大ナルヲ指摘シ殊ニ英方面ノ動搖政府當局ノ難局ヲ詳細說明セリ

二、蔣介石ノ印度訪問ニ關シテハ元來容易ニ國外ニ出テサル人物ナルヲ以テ今回ノ旅行ハ眞ニ已ムヲ得サル事情ニ迫ラレタルモノナリト推測セラル恐ラクハ英國側カ印度ノ動搖ヲ防カンカ爲彼ヲ利用シタルモノナルヘク他方蔣モ亦緬甸「ルート」遮斷ニ備フル爲印度ニ通スル新「ルート」ヲ建設セントスル案ヲ携行シタルヤモ知レス一說ニハ陳介ヲ其ノ責任者トシテ派遣シ急速ニ工事ニ着手スルモノナリトモ傳ヘラル然レ共印度ニ通スル「ルート」ハ㈠四川西藏ヲ通スルモノハ山嶽重疊シ殆ト不可能ト云フヘク㈡雲南「カルカツタ」路ハ比較的山嶽少キモ之亦相當ノ困難アリ短時日ニ建設スルコト不可能ナルヘシト思考ス

三、本使ヨリ最近蔣介石ハ「ウエーベル」將軍ト協議ノ上雜軍ヲ動員シ更ニ共產軍ト新ニ妥協シ各地ニ攪亂工作ヲ展開シ日本軍ノ後方ヲ衝ク計畫ナリトノコトナルカ如何トノ問ニ對シ大東亞戰爭勃發當初斯カル相談ヲ爲シタル旨ノ情報アリ或ハ最近更ニ具體的ニ話合ヒタルヤモ計ラレス

四、英米借款ノ利用ニ關シテハ是等巨額ノ借款ハ從來ノ如キ物資買付代金ニ充當スル譯ニモ行カサルヘク結局軍隊ノ士氣ヲ維持セントスル精神的效果ヲ狙ヒタルモノナルヘシ蓋シ近年支那ノ軍隊ハ㈠民族意識ノ點ニ於テハ往時ノ軍閥時代ノ場合トハ異リ㈡駐屯地ヨリノ收入ニテ兵ヲ養フヲ得サルニ至リ中央ヨリ經費ノ支出ヲ得ルコトトナリ夫レ丈ケ中央ノ統制力モ强化セラルルニ至リタル次第ナルカ今回ノ借款ハ中央ノ軍費ニ充當セラレ又間接ニ法幣安定ノ資金トシテ利用セラレ蔣ハ之ニ依リテ軍隊ヲ掌握

シ居ルモノナリ

緬甸[2]「ルート」切斷後ハ英米トノ聯絡ヲ失ヒ借款利用ノ方法ニモ一大支障ヲ來スヘキモ一說ニテハ蔣ハ最近蘇聯ト何等カノ協定ヲ結ヒタリトモ云ハレ果シテ事實ナラハ蘇聯ヲ通シテ之ヲ利用スル方法モアリ得ヘシ尤モ確實ナル筋ノ情報ニ依レハ蘇聯ハ一昨年秋以來殆ト重慶側ニ物資ヲ輸送シ居ラストノコトナリ

五、共產黨ニ關スル本使ノ質問ニ對シテハ最近中國共產黨カ從來ノ政策ヲ變更シ一層國民黨ト接近シ之ト妥協的態度ニ出ツル方針ヲ採リツツアルハ極メテ注目ニ値スヘキ現象ナリ右ハ莫斯科ヨリノ指令ニ依ルモノナルヘク又獨逸ノ攻擊ニ依リ打擊ヲ受ケタル影響ナリトモ察セラルル處毛澤東ハ過般國民參政會ニ於テ演說シ(イ)英米ニ好意ヲ示シ(ロ)蔣介石ヲ擁護スルコトヲ明カニセリ若シ大東亞戰爭ニ於テ日支合作シテ東亞ノ開放ヲ實現シ支那民族發展ノ基礎ヲ築クヲ得ハ共產黨ノ活動ノ如キ素ヨリ意トスルニ足ラサルヘク現在支那ニ於ケル最大ノ問題ハ一般青年カ出路ヲ失ヒ非常ナル煩悶裡ニ呻吟シ居ルコトナリ又共產黨ノ活動カ北支ニ於テ激シク中支ニ至ツテ衰ヘ南支ニ於テハ最モ稀薄ナルカ右ノ原因ヲ素直ニ言ヘハ國民黨トノ關係ニ依ルヘシ蓋シ中南支ニハ國民黨ノ組織アリ其ノ宣傳效果ニ於テハ共產黨ノ潛入スル隙ヲ少ナクシタルニ反シ北支ニテハ共產黨ニ對抗スル組織ナキコト最大ノ原因ナルヘシ

（欄外記入）

[3]此ノ意味ニ於テハ北京各大學學生ノ動向ハ最モ戒心ヲ要スルモノアリ凡ソ共產黨ヲ排擊セントセハ之ニ對抗スル組織ヲ必要トスルコト例ヘハ獨逸ニ「ナチス」アリ伊太利ニ「ファシスト」アリテ極メテ明瞭ニ共產黨ヲ驅逐シ得タルニ徵シテモ明カナリ日本ハ明治維新以來强キ國民意織(識カ)ヲ涵養シ安定セル社會組織ニ成功セル爲殊ニ斯カル特別ノ組織ノ必要ヲ感セサル譯ナルカ支那ニ於テハ然ラス現ニ重慶側ニ於テ辛ウシテ共產黨ノ跋扈ヲ押ヘ居ルハ全ク三民主義青年團ノ組織ニ基クモノト云フヘシ

六、曩ニ香港ニ派遣シタル林伯生陳訓泳歸來ノ報告ニ依レハ同人等ノ赴香カ陷落後相當ノ時間經過後ナリシ爲要人中九龍ヨリ陸路淡水方面ニ逃レタルモノ鮮カラス殘留者モ少ク餘リ效果ヲ得ラレサリシ實狀ナリ只省政府協力ノ下ニ一月二十八日迄約四十五萬人ヲ歸鄉セシメ香港人口ノ

約三分ノ一ヲ疎散セシメタルコトハ日本側ヨリ大ニ満足ノ意ヲ表セラルル實狀ナリ今後國民政府トシテハ香港方面ニ對シ大東亞戰爭ノ意義ヲ闡明シ日支事變解決ノ必要ヲ認識セシムルコトト致度シ

（欄外記入）
之ハ我民會ノ遣方ニ對スル批判ナリ

238　昭和17年2月27日　在北京土田参事官より東郷外務大臣宛（電報）

重慶軍のタイ国進入に関する在中国仏国大使の内話について

北　京　2月27日後発
本　省　2月27日夜着

第一八六號（館長符號扱、極祕）

佛印大使發貴大臣宛電報第二三四號ニ關シ

二十七日當地佛國大使他用ヲ以テ北澤來訪ノ節北澤ヨリ本件情報ニ付確メタルニ同大使ハ極ク内密ノ話ナルカ自分モ數日前同樣ノ情報ニ接シタリ卽チ重慶側ニ於テハ佛印ノ西北端（高クトモ海拔一千米程度ニテ通過困難ナラス）ヲ通過シテ「タイ」ニ兵ヲ進メ緬甸ノ東北地方ニアル重慶緬甸聯合軍ト對峙シ居ル「タイ」國內ノ「タイ」國軍及日本軍ノ背後ヲ突キ其ノ緬甸方面ニ對スル進擊ヲ牽制センコトヲ企圖シ居ルモノノ如ク右ハ「デリ」ニ於ケル蔣介石ト英國及印度側トノ話合ノ結果ニ依ルモノト想像セラル本件ハ佛印トシテ注意ノ要アルハ勿論ナルカ佛印協同防衞ノ地位ニアル日本トシテモ注意ノ要アル次第ナリト述ヘタル趣ナリ尚右ニ付テハ同大使ニ於テ機密保持方特ニ希望シ居リタルニ付御含置キ相成度シ

佛印大使、西貢公使、「タイ」ニ轉電アリタシ

南大、上海ニ轉電セリ

239　昭和17年4月30日　在北京北沢書記官より東郷外務大臣宛（電報）

閻錫山工作停頓の経緯につき報告

北　京　4月30日後発
本　省　4月30日夜着

第四一四號（極祕、館長符號扱）

往電第一二七號ニ關シ

二十九日大倉林ノ報告左ノ通

一、冒頭電報所報ノ通リ梁延武(廷カ)ハ茂川中佐ト共ニ三月初旬南京ニ赴キ汪精衞ニ會見諒解ヲ求メ歸來セルカ爾來太原ニ於ケル細目交渉進捗セサリシヲ以テ梁上椿ハ第一軍側ノ意ヲ受ケ四月中旬軍用機ニテ吉縣附近占領地區内ニ赴キ同地ニ於テ閻錫山趙戴文ト會同シタルカ其ノ際閻ハ日本ト合作シ度キ强キ希望ヲ述ヘ日本側ノ政治的考慮ヲ要望スル所アリタルカ折柄附近山上ニ日本軍飛行機ヨリ爆彈ノ投下アリ閻ハ日本側ニ於テ斯ル威嚇ヲ加フルニ於テハ交渉モ無益ナリト憤慨シ會見ヲ打切リ吉縣ニ引返シ交渉ハ完全ニ停頓スルニ至レリ

二、依ツテ第一軍岩松司令官ハ二十八日兵團長會議出席ノ序ヲ以テ岡村軍司令官ト協議ノ結果從來懸案タリシ岩松、閻會見ヲ行フ事ニ依リ右停頓狀態打開ノ爲五月初旬濕縣(縣カ)ニ赴ク事トナレリ(右會見ニハ花谷參謀長梁上椿林(?)同行ノ豫定)

南總(外信)、上海ニ轉電セリ

---

240 昭和17年5月11日 在中国日高代理大使より東郷外務大臣宛(電報)

閻錫山と岩松司令官との会談不調の旨総軍より聞き込みについて

南京 5月11日前発
本省 5月11日後着

第五四八號(部外祕、館長符號扱)

總軍ヨリノ聞込ニ依レハ閻錫山ハ六日岩松司令官ト極メテ和カナル空氣ノ中ニ會見セル處交渉ニ際シテ閻ハ軍費及武器ヲ受領セル後一年ニシテ和平參加ノ通電ヲ發スヘキ旨ノ條件ヲ提出セル爲ニ交渉ハ不調ニ歸シタル趣ニシテ此ノ上ハ徹底的ニ討伐ヲ實行スル外ナカラントノ見込ナリ

尙關係者ハ作戰ノ都合モアルラシク極力祕密ニ附シ居ル模樣ナリ

御含迄

北大ヘ轉電セリ

241　重慶政権による対日軍事作戦などに関する情報

昭和17年5月27日　在中国重光大使より東郷外務大臣宛（電報）

南　京　5月27日後発
本　省　5月30日後着

郵第四號（外機密、館長符號扱）

情報（取扱注意）

一、大東亞戰爭勃發以後ニ於ケル日本ノ戰果ハ重慶政權ニ相當ノ衝動ヲ與ヘタル模樣ナルカ蔣介石ハ依然獨逸ノ敗北、日蘇開戰又ハ日本ノ疲幣（弊カ）困憊等ニ期待ヲ掛ケ依然抗戰ヲ決意シ居ルモノノ如ク而シテ各種情報ヲ綜合スルニ重慶ハ日本カ西安、洛陽、京漢線、長沙、浙東方面ニ對スル進攻ヲ惧レ「ゲリラ」戰ニ依ル日本軍ノ後方攪亂ト日本本土空襲トニ依リ日本ノ進攻ヲ牽制セントシツツアリ

二、即チ重慶ハ對日總反攻ノ名ノ下ニ本年三月末日本軍占領地區ニ對スル「ゲリラ」開始ヲ命令シ四月二十日前後ヨリ各地ニ於テ鐵道破壞、拉致、暗殺、逃亡誘致等相當活氣ヲ呈スルニ至リタルカ之ト共ニ浙東ニ於ケル金華、衢州、麗水、玉山等ノ飛行基地ヲ擴充整備シ日本空襲ノ準備ヲ爲シツツアリタル處右浙東空軍基地整備ト前後シテ四月十八日日本本土ヲ空襲セル米國飛行機十數機モ前記空軍基地ニ着陸スル目的ヲ有シタルハ明カナリ重慶カ「ラヂオ」放送其ノ他ニ依リ最近日蘇開戰誘發ニ躍起トナリ居ルハ累電ニ依リ御承知ノ通リナリ

三、我カ軍ハ前記浙東空軍基地破壞ヲ主タル目的トシテ本月中旬杭州、紹興方面ヨリ之ニ對シ一齊進擊ヲ開始シ本月金華ヲ占領セル旨發表セラレタリ

尙右作戰ト併行シテ北支ニ於テハ共產軍討伐ヲ開始シ一部ハ華北中央地帶ノ呂正操軍ニ對シ又一部ハ河北、山西、河南省境山嶽地帶ノ晉冀魯豫ノ邊區政府竝ニ劉伯承軍ニ對シ討伐中ト報セラル

四、重慶軍現在ノ兵力ハ正規軍三百二十箇師三百萬遊擊軍百二十萬飛行機三百機（但シ使用シ得ルモノ數十機ト推定セラル）ヲ有シ居ル處其ノ戰力ハ一箇師カ我方一箇大隊ニ匹敵スルモノト思考セラルルニ付重慶側ハ大體我方三十箇師ニ相當スル戰力ヲ有セルモノト見ラレ居レリ

242

昭和17年6月9日　在中国重光大使より東郷外務大臣宛（電報）

閻錫山工作の経緯に関する汪兆銘の説明について

南　京　6月9日発
本　省　6月27日着

郵第五號（館長符號扱）
往電第五四八號ニ關シ
五月三十一日ノ會見ニ於テ汪主席ハ閻錫山工作ノ成行ニ關シ左ノ通リ説明セリ
一、後宮總參謀長（同參謀長ヨリハ直接本使ニモ話アリタリ）ノ話ニ依レハ去ル五月五日閻錫山ハ山西軍司令官岩松中將ト安平村ニ於テ會見スルコトヲ約シタルカ同日ハ雨天ナリシ爲六日ニ改メ會見セリ當日ハ日支双方打合ノ結果護衛兵各二百名ヲ率イテ乗込ミ午前十時同地ニ到着シ先ツ豫備的會談ノ形式ニテ話ヲ進ムルコトトセルカ閻ハ本日ノ會談ニ於テハ政治問題特ニ防共問題ニ付話合ヲ爲シ軍費及武器ノ問題ハ委員會ニ讓リ協議セシメタシト提議シ日本側モ之ヲ了承セリ
次イテ岩松中將ノ同伴セル花谷參謀長ハ閻ト嘗テ懇意ナリシ關係モアリ閻ニ對シ和平通電ヲ成ルヘク速ニ發出セラルルコト望マシク出來得レハ五月中ニ出サレタシト述ヘタルニ閻ハ大體之ヲ承諾セリ（參謀長ノ本使ニ對スル報告ニ依レハ閻ハ他ノ條件實行ニ伴ヒ一ケ月後ニ讓リタシト言ヒタル由）正午午餐ノ際ハ「ニュース」映畫ヲ撮影セルカ閻ハ別ニ之ヲ避クル樣子モ無ク撮影スル儘ニ任セタリ斯クテ午後二時正式會談ニ入リ岩松中將ヨリ閻ノ和平參加表明カ早ケレハ早イ程良シトノ意味ヲ加ヘタル挨拶ヲ述ヘタルニ對シ閻ハ右ハ贊成ナルカ但シ亞洲同盟ト經濟政策ニ付意見アリ㈠世界ハ今後歐洲、米洲、亞洲ノ三大「ブロック」ニ形成セラルルノ趨勢ニアルニ鑑ミ亞洲同盟ハ必然的ノモノニシテ且日本カ先進國タル以上其ノ中心トナリ支那及滿洲カ之ニ共同スヘキモノナルコトハ當然ナルカ外交ノ一致ト内政ノ獨立トヲ以テ條件トスヘシ㈡經濟政策ハ防共ニ重點ヲ置キ產業商權ト勞能（勞働能力）分配ノ政策ヲ採用スヘシト述ヘ夫レヨリ產業商權及勞能分配ノ説明縷々トシテ盡キス約二時間ヲ費シ午後四時トナレリ岩松中將モ之ニハ呆レ説明ハ夫レ位ニ止メ具體的問題ヲ相談セントテ之ヲ打切リタルカ閻ハ具

體的問題ハ委員會ニ讓リタシトテ話ニ乘ラス書面ヲ提出セリ右書面ハ閣側ノ要求ヲ示セルモノナルカ其ノ内容ハ嘗テ約定ヲ遂ケタルモノヲ超過セル部分多ク岩松中將モ之ヲ見テ意外トナシ休憩ヲ宣シタルカ中將ハ幕僚連ニ對シ本日ハ遣憾乍ラ何等ノ結果モ望ミ得スト報告セリ休憩後岩松中將ハ本日ノ會談ハ餘ス時間幾何モナキ處如何スヘキヤト問ヒタルニ閣ハ妨ケナシ自分ノ方ヨリ梁上椿ト趙承綬トノ兩名ヲ太原ニ差遣ハスヘキニ付此ノ兩名ト具體問題ヲ協議セラレタシト述ヘタル趣ナリ

以上ハ後宮總參謀長カ五月十二日ニ自分ニ語リタル内容ナリ所謂產業商權ト勞能分配トハ閣カ何時モ得意トナリ說明スル案ニシテ嘗テ南京ニ於ケル中央執行委員會會議ノ席上ニ於テモ此ノ問題ヲ長々說明シ出席者ヲ當惑セシメタルコトアリ產業商權トハ人民所有ノ財產ヲ貨幣化スル法案ニシテ勞能分配トハ人民ノ勞働力及能力ヲ財產ト認ムル法案ナリ何レモ陳腐ナル外國ノ經濟學說ヲ取入レタルモノニテ時代錯誤的ノモノナルカ本人ハ大得意ナリ尙後宮總參謀長ハ閣ノ提出セル書面ヲ見ルニ約定ト違ヒ軍費及武器ノ要求額カ餘リニ多キニ過キルハ怪シカラストテ憤慨シ居タリ（參謀長ハ本使ニ對シテハ事情右ノ如キニ付前約ヲモ廢棄セリト語レリ）

次ニ閣ノ代表ノ述フル所ヲ傳フヘシ同代表ハ五月二十一日到着セルカ梁上椿ノミニテ閣、岩松會談ニモ列席セル閣ノ一祕書ナリ同人ノ述ヘタル會談ノ狀況ハ略々上述後宮參謀長ノ語レル所ト同シニ付之ヲ省ク自分トノ質問應答ノ内容ヲ傳フヘシ

先ツ自分ヨリ嘗テ南京ニ於テ中央執行委員會開會ノ際閣カ產業商權ト勞能分配ニ付時間ニ構ハス說明スルニ飽キ飽キシタルコトアリシカ今回ノ岩松中將トノ會談ニモ又此ノ話ヲ持出シ貴重ナル時間ヲ費シタルハ何故ナリヤト問ヒタルニ彼ハ其ノ不審ハ尤モナルカ閣ハ第一ニ數年來共產黨ノ爲苦シミ來レル關係上右法案ヲ實行セサルヘカラストノ確信ヲ持チ居リ第二ニ一層重要ナルハ十數年間蔣介石ノ壓迫ニ遇ヒ理想モ抱負モ實行ノ術無カリシヲ恨トシ今回和平ニ參加セル後ハ切メテ自分ノ政策位ハ自由ニ實行スルコトヲ認メテ貰ヒタシト熱望シ居ル爲斯クノ如キ長談議ヲ試ミタル次第ニテ日本側カ之ヲ了解シ政治ニ自由ヲ與フルヤ否ヤヲ確メント欲シタレハナリ蓋シ閣

ハ多クノ人々カ汪精衞ハ現在南京ニ於テ何等自分ノ政策ヲ行ヒ得サル立場ニアリト噂シ居ル爲若シ果シテ事實ナラハ自分カ和平ニ參加セル曉汪ト同樣ノ羽目ニ陷リ蔣介石ノ下ニ居ルト同樣ニ無意義ナリト思ヒ居レハナリ依テ當日ノ會談ニ於テ長々ト政治上ノ主張ヲ述ヘ其ノ通リ實行スル自由ヲ日本側カ與フル見込付ケハ和平參加ヲ決心スル積リナリシナリ尙軍費及武器ノ要求額カ前ノ約定ト異リ多少出入アルハ行政ノ變化ニ基クモノニシテ一々其ノ理由ヲ說明書ニ記入シアリト說明セリ依テ自分ヨリ閣カ僅々三、四時間ニテ其ノ政治上ノ主張ヲ人ニ了解セシメントセルハ無理ナルヘシ自分カ日本側ト政治上ノ話合ヲ遂クルニ付テハ第一回ハ東京ニ赴キ二週間ヲ費シ次ニ上海ニ於テハ相當ノ日子ヲ費シテ懇談シ更ニ阿部大使トモ相談シタルカ如ク短時間ニテハ到底了解シ得ルモノニ非スト告ケタルニ彼ハ閣ハ決シテ其ノ內容ヲ日本側ニ了解シテ貰フ意味ニ非スシテ日本カ之ヲ尊重シ其ノ實現ノ爲自由ヲ與フルヤ否ヤヲ確メントスルニアリタリト答ヘタリ然ラハ岩松中將ニ語ルコトハ筋違ニ非スヤ日本政府當局ト會見シテ充分意見ヲ交換スヘキ問題ニ非スヤト語リタルニ彼ハ答ヘス今後ノ事ハ自分ヨリ言フ權限無シトテ彼ハ天津ニ歸レリ

以上ハ閣ノ代表トノ質疑應答ノ概略ナルカ閣ノ氣持ナルモノハ重慶側ニ於ケル大多數ノ氣持ト見テ差支無ク要スルニ和平ニ參加スレハ自由ヲ失フニ至ルヘシトテ其ノ點ヲ恐レ居ル譯ナリ此ノ點ニ付テ自分ハ嘗テ「ラジオ」放送ヲ試ミ自由ヲ要求セントセハ先ツ協力ニ依リ始メテ自由ヲ得ラルヘシトノ意味ヲ說明シタルコトアリ幸ヒニ手許ニ「協力ト自由」ト題スル自分ノ草セル一文アリタルヲ以テ之ヲ同代表ニ渡シ自由ハ權利ニシテ協力ハ義務ナリ義務ヲ果シテ始メテ權利ハ得ラルヘシト告ケ置キタリ結局閣ハ尙躊躇シ居ル模樣ニテ今ノ處樂觀モ悲觀モ出來サル狀態ナリト述ヘタリ

二、右主席ノ說明ニ對シ本使ヨリ閣ト重慶側トノ關係如何現在尙重慶側ヨリ軍費ノ支給ヲ受ケ居ルヤト尋ネタル處然リ軍費ノ補給アリ夫レカ爲和平ニ參加スレハ忽チ軍費ヲ此方ヨリ送ラサルヘカラサルナリ軍費問題ニ付嘗テ松岡外務大臣ニ語リタル處閻錫山、李宗仁、白崇禧等ノ軍隊來リタル時ハ幾何ノ軍費ヲ要スルヤト尋ネラレタルニ付

一年三億圓位掛ルヘシト答ヘタルニ日本ハ一月ニ何億ト謂フ軍費ヲ使ヒ居レリ一年三億ヤ五億ハ幾何ラテモ融通出來ルト語ラレタルコトアリ閻カ和平ニ參加スレハ其ノ兵力ハ二十五個師(十數萬)ニ過キサルモ山西一帯カ和平地區ニ入ルト謂フ點ニ於テ意義アリ依テ閻錫山工作ハ矢張リ進行セシムル方可然ト思考セラル其ノ書面ナルモノハ未タ見居ラサル爲詳シキ内容ハ知悉セスト語レリ

北大ヘ暗送セリ

243　昭和17年6月18日　在北京土田参事官より東郷外務大臣宛(電報)

閻錫山工作決裂も日本軍と山西軍との合意は可能との山西省長の内話について

北　京　6月18日後発
本　省　6月18日夜着

第五五九號(館長符號扱、極祕)

閻工作決裂ノ次第ハ屢次報告ノ次第アル處十七日來京ノ山西省長蘇體仁ハ往訪ノ原田ニ對シ閻軍對日本軍關係ハ謂ハハ「藕斷絲連」ニテ蓮根カ切斷サレ乍ラモ糸ヲ引キ居ルカ如ク完全ニ絶縁ト迄ハ行カス一部ニ於テハ日本軍ノ山西軍包圍態形整ヒ、小競合ヲ爲シ居ルカ(爲シ居ルナリ)ト思ヘハ一部ニハ彼我將星ノ聯歡スルアリテ寔ニ奇妙ナル現象ヲ呈シ居レルカ元來兩者ノ間ニハ合作ナル大綱ニ付テハ意見一致シ居リ其ノ履行方法ニ相違ヲ來シタルモノニテ閻トシテハ何處迄モ原則論ニ拘泥ハリ居ルモノニアラス日本側ノ短兵急ナル要求カ彼ノ感情ヲ害シ遂ニ一時決裂ヲ見タル譯ナルカ本件ニ付仲介人トシテ双方ノ氣持ヲ充分知悉シ居ル自分ノ觀測ニテハ双方感情ノ冷却ヲ俟チ原則論ニ固執セス個々ノ事情ニ依リ双方主張ノ實現ヲ圖リ延イテ原則ニ近寄ラシムルコト至當ト認メラルルニ付今後共本件ニ盡力致ス積リナリト内話セル趣ナリ

南總(外信)、上海ヘ轉電セリ

244　昭和17年6月19日　在中国重光大使より東郷外務大臣宛(電報)

対ソ関係等に関する重慶政権側の動向について

南　京　6月19日後発
本　省　6月19日夜着

第七八八號(館長符號扱、極祕)

一、[1]蔣介石ハ最近民食會議ニ於テ一城一地ノ得失、一時一日ノ勝敗ハ問題ナラス支那ノ抗戰ハ世界大戰ノ中ニ於テ解決ヲ見ルモノナリト演說シ又林森ハ昨年ノ單獨抗戰ヨリ今ヤ二十七ケ國ノ聯合抗戰ニ進展セリト述ヘ又蔣介石カ印度ニ於テ英米聯合軍ヲ指揮セルハ事實ニ支那ノ史上未曾有ノコトニシテ支那ハ今ヤ世界ノ强國ニ伍スルニ至レリト宣傳シ居レリ

二、重慶ハ累電ノ通リ「ラヂオ」其ノ他ヲ通シ日本軍ノ北支中共軍討伐ヲ目シテ日本ノ對蘇攻擊ノ準備工作ト稱シ又「アリユーシアン」群島進攻ニ關シテモ蘇聯攻擊ノ據點ヲ得ル爲ナリト述ヘ居リ諸般ノ情報ヲ綜合スルニ極力日蘇關係ノ惡化ト蘇支關係緊密化ノ工作ニ進ミツツアリ(軍側情報ニ依レハ最近蔣介石ハ蘇聯駐支大使及武官ト會見シ英米蘇支協同進攻組織ヲ審議シ近ク駐支蘇聯大使ハ打合ノ爲重慶軍要人ト共ニ莫斯科ニ歸還スル趣ナリ)

三、情報ニ依レハ本月一日以降最近ニ至ル迄ノ西北「ルート」經由「ガソリン」三十七噸、石油液化油四十噸供給セラレ

[2](右ハ從來ノ西北「ルート」輸送量月額二百噸乃至四百噸(中石油ハ其ノ半額ヲ占ム)ニ比シ左シテ大量ナリトハ思考セラレス)又約十日前西北「ルート」經由米國飛行機約十臺蘭州ニ到着セリトノコトニテ重慶側カ緬甸「ルート」並ニ浙東密輸「ルート」遮斷ノ今日西北「ルート」ノ强化ニ努力シツツアルハ略々事實ト見テ差支無キカ如シ

四、英蘇協定ニ關シテハ蘇ハ同協定ハ日本ニ無關係ナリト稱シ英亦同一趣旨ノ事ヲ云ヒ居ルモ重慶ト蘇聯トノ關係ノ緊密化ハ直接帝國ニ重大關係ヲ及ホス問題ナルニ付注意ヲ要スル處日本ヲ憚ル蘇聯ハ重慶側ト表面上ノ關係ヲ擇フモノノ如ク今日迄ノ處當方ノ得居ル情報ヲ綜合スレハ上記ノ通リナリ

滿、北大、上海ヘ轉電セリ

蘇ヘ轉電アリタシ

245　昭和17年8月19日　在中国重光大使より東郷外務大臣宛(電報)

重慶政権の西北方面及びインド方面での動向

に関する情報

南　京　8月19日後発
本　省　8月19日夜着

第一一五二號(部外祕、館長符號扱)

重慶最近ノ動向左ノ通リ

一、從來西北方面ハ第二戰區竝ニ第八戰區ニ分レ居リタル處今回蘭州附近一帶ニ第十戰區ヲ再編成シ司令長官ハ蔣介石自ラ兼任シ副司令官ニ胡宗南ヲ任命セルカ右ハ一面ニ於テ中共軍及青海ニ移駐セル回教軍ニ對スル備ヲ爲スト共ニ日本軍ノ西北方面進撃(重慶側ハ近ク十月頃日本軍ノ西北竝ニ雲南ヨリスル重慶進撃ヲ信シ居レリ)ニ備フルモノト思考セラル尙西北「ルート」强化ノ目的ヨリ同方面ノ回教軍ヲ青海ニ移駐セシメ中央軍ヲ以テ代ヘタル次第ハ往電第一〇〇二號ノ通リ

二、重慶ハ印度問題ニ關シ「ル」大統領ニ仲介方ヲ依賴スルト共ニ英國ニ對シ穩便ニ問題解決方ヲ勸告セル模樣ナルカ蔣廩(廷カ)黻ハ外人記者團ニ對シ英蘇支三國共同ニテ印度問題ニ仲介斡旋スヘキナリトノ意見ヲ開陳セシ趣ナリ

三、印度方面ヨリスル米飛行機ノ對重慶輸送ハ從來新疆經由ナリシ處最近天候ノ關係等ヨリ「カラチ」ヨリ直接「アツサム」經由重慶ニ向フモノノ如ク而シテ今月一日ヨリ十四日迄ノ間ニ二十一機(戰鬪機、爆撃機ヲ含ム)ヲ輸送セル事實アリ他方佛國側情報ニ依ルモ米機重慶輸送ハ每日平均一機ノ割合ナル趣ニテ目下ノ處米機重慶輸送ハ大體月平均三十機乃至五〇機程度ト推定セラル

尙從來重慶カ飛行士ヲ米國ニ派遣シテ之ヲ養成セシメツツアリタル處最近米國ヲシテ「カラチ」ニ學校ヲ設立約二ケ月位ノ短期養成ヲ爲サシメツツアル模樣ナリ

246　昭和18年1月21日　在上海田尻公使より青木大東亜大臣宛(電報)

重慶政権内での戦後問題に関する調査・研究について

上　海　1月21日後発
本　省　1月21日後着

第一七三號

重慶政府ニ於テハ一年半前ニ組織セラレ王寵恵ヲ主班トスル國際問題研究委員會、蔣介石ヲ主班トスル戰後國内問題

企劃ニ當ル中央企劃院(幹事長王世杰)竝ニ最近組織サレタ「戰後問題調査立案委員會」ト稱スル吳鐵城ヲ中心トスル有志ノ一團ヨリナル三團體ニ依リ着々戰後ノ問題カ研究サレテ居ル其ノ主張スル要點ハ滿洲、臺灣、琉球返還要求テアルカ特ニ滿洲ノ無條件返還ト同國內ニ於ケル日本ノ特權解消ハ其ノ中心對策テアル印度及「ビルマ」ノ主權ハ嘗テ英佛兩國進出前支那ノ掌中ニアツタカ支那「スポークスマン」中未タ之ニ言及セルモノナシ但シ其ノ將來ノ地位ニハ深キ關心ヲ有ス雲南ヨリ海防ニ至ル五百哩ノ佛鐵道ニ對シ支那平時戰時ヲ通シ之カ使用權ヲ主張ス南支方面ニ散在スル小國ニ對シテハ英蘭兩國何レモ比律賓等ニ於ケル米國ノ政策ト同一態度ニ出テンコトヲ希望シ居ル模樣ナリ「マレー」「タイ」「ビルマ」蘭印及葡萄牙領土ニハ多數支那人居住シ居ルヲ以テ其ノ人口ニ應シ適當ナル主張ヲ爲サントス朝鮮ハ完全ニ獨立シ印度ハ廣範圍ノ自治ヲ行フコトヲ歡迎ス支那ハ勿論完全ナル日本ノ武裝解除ヲ要求シ再ヒ軍閥勃興ノ餘地ナキ手段ヲ講スルコトヲ要求スヘシ世界平和維持ノ爲國際聯盟ニ欣然參加スル用意アリ關係國ノ主權ニハ多少侵犯スルトコロアリト雖モ國際警察制度ノ樹立ヲ强調ス一部ニハ地域的國家聯盟ヲ歡迎スル分子アリ更ニ印度ヲ含メ太平洋ニ面スル諸國ノ「アソシエーション」ヲ考慮シ居ルモノアリ此ノ「アソシエーション」ハ紛爭調停關稅制定物資配給等重要ナル地域的得失ヲ有スル事項ヲ取扱フコトトス二十一年前ノ孫文ノ計畫ハ現在重慶ニ於テハ福音視サレテ居ル世界ノ一等國ト伍シテ行カンカ爲支那ハ自ラ其ノ廣汎ナル資源ヲ利用シ高度ノ工業化ヲ行ヒ其ノ手段トシテ交通運輸ヲ擴張シ資源ノ搬出ニ便ナラシメ同國ニ文明ノ恩惠ヲ及ホサントス從テ戰後五ケ年ハ主力ヲ重工業鐵道及水路運輸ニ注クヘシ其ノ鐵道用品選擇工業資材ハ何レモ之ヲ外國ニ仰カサルヘカラス而シテ之カ供給シ得ル國ハ世界ニ唯一國卽チ米國アルノミ其ノ全幅的支持アラハ支那ハ比較的速ニ發展シ得ヘシ戰後ニ於テ米國カ目下建造中ノ船舶竝ニ鑛山採掘用具ヲ支那ニ供給センコトヲ要望ス勿論支那トシテハ財政ノ確立ヲ行ヒ戰後ノ疲弊ヲ恢復スルト共ニ輸入品ニ充當セントスル現行法ニ依レハ基本工業ハ支那ノ統制ヲ受ケ從テ外資ノ投資困難ナルモ將來之ハ改正サレ一大國家「トラスト」ニ統合シ外資ヲ迎ヘントス鐵、石炭ノ豐富ナル滿洲ヲ重工業ノ中心トシ次テ北支及中支ニ依存セントス

石油ハ新疆甘粛竝ニ既ニ試掘中ノ青海方面ヨリ之ヲ得ントス戰後三百萬乃至五百萬ノ除隊兵ノ民間轉業ハ支那トシテハ重大問題テアリ又民間救濟事業ハ一大仕事テアル經濟復興國境紛爭解決モ亦必要テアル而シテ上記大事業ハ何レモ米國ノ經濟的及政治的ノ全幅ノ協調ニ依存シ初メテ可能トナルモノニシテ果シテ此ノ機ヲ得ルヤ否ヤハ問題テアル其ノ實例トシテ第一次世界戰爭後米國ノ關心カ歐洲ニ向ケラレシトキ孫文ノ發セル警告カ想起サレルノタ

247　昭和18年4月12日　在中国堀内代理大使より青木大東亜大臣宛(電報)

南京国民政府軍等による背反事件漸増の背景には重慶側等の策動ありとの情報について

南　京　4月12日後発
本　省　4月13日前着

第七〇一號(極祕)

總軍側調査ニ依レハ昭和十五年以降ノ國民政府軍隊及警察其ノ他武裝團體ノ背反事件ハ十五年度十六件(兵員約一千)十六年度十九件(約五百名)十七年度五十六件(七千名)本年(三月迄)七件ニ達シ漸增ノ傾向ニアリ其ノ原因ハ敵側ノ策動ニ基クモノ絶對多數ナル趣ニシテ特ニ最近東南太平洋方面ノ戰況ノ推移又近ク豫想セラルヘキ緬甸反攻乃至我對支處理根本方針ノ轉換ニ乘シ重慶側及中共側ハ惡質ノ宣傳ヲ流布スルト共ニ國府側機關就中武裝團體内ニ重慶乃至中共分子ヲ擬裝潛入セシメ日華離間、第五列ノ扶殖及反亂ニ依ル武裝ノ取得其ノ他諜報ノ積極化ヲ企圖シ居ル爲メナリト認メラルルニ付御參考迄

上大、北大、張大、滿大、漢口、廣東ヘ轉電セリ

248　昭和20年3月6日　在中国谷大使より重光大東亜大臣宛(電報)

重慶政権と中国共産党との関係悪化に関する情報

南　京　3月6日前10時00分発
本　省　3月6日前11時15分着

K第八〇號(極祕)

二日陳誠ハ朱紹良ニ對シ蔣介石ノ諭示トシテ國共關係ハ重大ナル關頭ニ立チ至リタルニ付各所屬機關ハ邊境ノ監視ヲ

强化シ防備ヲ嚴ニスヘキ旨ヲ通達シ又政治部第二廳長黄少谷ハシユクシヨウシユー（祝紹周カ）ニ對シ中樞ハ軍政ノ統一ニ腐心シ中共ニ最大ノ讓歩ヲ吝マサルモ中共ハ依然政權奪取ノ野心ヲ有スルコト明カニシテ中國民族ノ幸福ノ爲之等企圖ヲ覆滅スルニ決セル旨ヲ報シ居ル處一方林祖涵ハ董必武ニ對シ毛澤唐（東カ）ハ蔣ノ態度依然頑強ナルニ失望ノ意ヲ表シ近ク軍政會議ヲ開催シ今後共産黨ノ取ルヘキ決定策ヲ討論スル旨ヲ報シ居レリ尚同日齊ハ唐ニ對シ周恩來ハ先般延安ニ於テ開催セラレタル中共首腦會議ニ出席後昨夜歸渝蔣介石ト會見シ中共當局ノ國共紛糾ノ今般解決ニ對スル意見及重慶當局ノ提案ニ對シ回答ヲ爲セルカ蔣ハ昨日憲政實施協進會ノ席上率直ニ中共ヲ責メタル點ヨリ國共交渉ハ悲觀的ナリト見ラルル旨ヲ報シ居レリ

249 昭和20年3月16日 在中国谷大使より重光大東亜大臣宛（電報）

新華社による蔣介石批判について

南　京　3月16日後5時00分発
本　省　3月19日前10時00分着

K第一二〇號

延安新華社ハ十一日社論ニ於テ「孫中山ヲ記念シ蔣介石ヲ批判ス」ナル論文ヲ發表セルカ其ノ要旨左ノ通

一、幾多ノ困難ヲ經來レル中國ノ革命カ民國十三年以來急激ナル發展ヲ示セルハ孫先生カ國民黨ト共産黨トヲ正式ニ結合セシメ且民衆トノ結合ヲ開始セル爲ナリ然ルニ蔣ハ孫先生ノ逝去後二年ニシテ反革命的トナリ中國ヲ更ニ暗黒ノ狀態ニ戻シタルカ西安事變以來兩黨ハ團結抗戰ノ前提ヲ得タリ

二、然ルニ蔣及其ノ代言人ハ數日前迄公開的ニ中國「ファシズム」ノ爲ニ努力シ「中國ノ命運」ヲ著シテ反共戰ヲ進メ民主主義者ヲ殺戮スルヲコトトセリ今ヤ蔣ハ民衆、米政府並ニ「クリミヤ」會談等ノ壓迫ニ依リ口頭ヲ以テ民主主義ニ贊成シ居ルモ其ノ實際ノ行動ニ於テハ民主主義ヲ害シ居リ國民大會ノ招集モ蔣ノ獨裁ヲ合法タラシメ内戰ノ旗幟ヲ準備セシムルモノナリ國民大會ハ形式上ヨリ見レハ蔣モ人民モ共ニ贊成シ居ル如キモ中國人民ハ眞ノ國民大會ヲ要求スルモノナリ卽チ同大會ヲシテ蔣ニ喧セラルルコトナキヲ保證スル爲卽時蔣ノ專制政治ヲ除キ直

ニ聯合政府ヲ成立セシメテ日本ノ帝國主義的勢力ト中國「ファッショ」勢力ヲ驅逐シ民衆ヲシテ投票ノ自由ヲ獲得セシムヘキナリ

在支各大使館事務所長ヘ轉電セリ

250 重慶政権と中国共産党との関係等に関する周仏海との会談について

昭和20年4月26日　在中国谷大使より東郷外務大臣宛（電報）

南　京　4月26日後4時00分発
本　省　4月26日後6時00分着

K第一九五號（館長符號扱）

二十三日本使周佛海ト會談ノ際對重慶政治工作其ノ他ニ關シ周ノ内話セル處左ノ通リ

一、其ノ後朱文熊（從來朱文龍トアルハ熊ニ改メラレタシ）ハ成ルヘク早目ニ歸着スル爲北支廻ヲ取止メ西安ヨリ昆明ニ引返シ飛行機ニテ福建省ノ某地ニ赴キ上海ニ向フコトニ豫定ヲ變更セル旨同人ヨリ通報アリ不日到着スルモノト察セラル

二、國共關係ハ益々惡化シツツアルカ米國ト延安トノ關係モ漸次冷却シツツアリ元來延安ノ米國接近ハ米國ヲ利用シテ自己勢力ノ增大ヲ圖ラントスルモノニ外ナラス現ニ延安ハ向井ニ對シ祕密ニ吾人ハ米國ノ資本主義ト根本的ニ相容レサルモ一時之ヲ利用シテ延安政權ノ增大ヲ圖ルヘシトノ指令ヲ發シ居ル事實アリ米國カ最近延安援助ヲ差控ヘルニ至レルハ斯ル内幕ヲ知リタル結果ト察セラルルカ重慶側國民黨ニ於テモ是等米國ト延安側トヲ引離スニ都合ヨキ材料ヲ集メ躍起トナリテ米國側ヲ動シツツアル模樣ニテ曩ニ陳立夫ヨリモ南京側國民某ニ對シ此ノ種米國ヲシテ延安側ニ愛想ヲ盡サシムルニ足ル材料ノ入手送付方依頼越シタルコトアリ最近米國ノ對延安態度ノ變更ハ右CC派ノ苦心カ相當效ヲ奏セル結果ト察セラル

251 重慶政権側の動向に関する李思浩内話について

昭和20年8月2日　在上海土田公使より東郷大東亜大臣宛（電報）

上　海　8月2日発
本　省　8月2日着

第一二二二號(極祕)

三十一日李思浩ト會談ノ際同人内話中御參考トナルヘキモノ左ノ通

最近重慶ヨリ來滬セル連絡者二名アリ一ハ二個月前ニ出發シ閻錫山地區ヲ通リ來リタルモノ、他ハ貴陽、芷江、屯溪ヲ經テ來タルモノナルカ兩人共蔣介石ノ苦惱甚タシキヲ語リ殊ニ一名ハ軍人出身ナル關係上重慶軍米式化ノ遲々タル實情ニ關シ說明アリタルカ右ニ依レハ全軍中五十萬ノ米式化目標ハ現在ヤツト三十萬ニ達セルニ過キス然モ其ノ半數ハ實戰ニ經驗無キ學生軍ナル爲實力低ク從テ米軍ノ大陸上陸乃至落下傘部隊着陸ノコトアランカ之等米軍ノ大陸蹂躪ヲ阻止スル爲物ヲ言ハントスルモ言ヒ得ス斯ノ如キ始末ナレハ今次「ポツダム」ヨリノ米英要求ニ對シテモ内容ニ付兎ヤ角言フコトモ出來ス否應ナシニ應諾セサルヲ得サリシ次第ト思ハル兎ニ角蔣ノ昨今ノ懊惱ハ甚タシキモノト察セラル云々

本電出所極祕トセラレ度

支へ轉報セリ